

# 「柏崎の水」

## 椎谷 身隠しの滝（不動滝）

椎谷観音堂の仁王門前から南東方向へ進み、さらに御前水（お茶水の井戸）へ向かう道を奥まで行くと、不動堂の建物の向こうに身隠しの滝（不動滝）が見える。また観音堂境内の案内板から竹林の山道を10分ほど下ることでも到着する。滝近くには、滝の修復工事時に地中から発見されたという不動尊などが祀られている。

### 【伝説要旨】

『弘法大師(空海)は唐の国に渡り、恵果和尚に師事した。そして「万里の海を越えて旅する時には必ず不動明王の力におすがりせよ。」との教えを受け、帰国の際には身と心を浄め一寸八分(5.5cm)の不動明王を彫刻し、それを船中の守本尊とした。無事帰国した弘法大師は諸国を行脚し、椎谷の地で不動明王を安置することになった。しかし、夜明けの霧が立ちこめるある朝、突然不動明王が滝の中に姿を消してしまった。この時から滝のことを身隠しの滝と呼ぶようになった。』(柏崎市伝説集)

『信濃国の侍が武者修行のため椎谷を訪れたところ、高熱に襲われてしまった。椎谷の人々の看病により熱はひいたものの、歩くことも立つこともできなくなった。ある夜、不動明王が侍の夢枕に立ち、信心すれば病気を治すと言った。不思議に思った侍がこのことを村人に話すと、「弘法大師が滝のそばのお堂に泊まった」身隠し滝の不動明王は弘法大師が唐の国から帰るとき守本尊としたものである」と説明された。そこで侍は昼夜問わず一心に祈願したところ、ついには以前の健康を取り戻すことができた。侍は武者修行をやめ髪をそって僧となり、滝の堂守りとして、生涯、不動明王につかえた。』(昔の話でありました 第5集)



現在の滝は、滝の上方にある池(用水)から管を通し、沢の流れと合流させ、樋から流す人工の滝である。もちろん以前は自然滝であったが、長い年月の間に浸食や土砂崩れのためその姿が失われてしまった。その後平成7年に当時2本となっていた水の流れが1本の滝にまとめられ、現在の形に整備された。なお、樋口が崖のふちから少し離れているのは、滝の流れにより岩盤が侵食されるのを防ぐためでもある。

滝の前にある不動堂では、2月15日にだんごまきが盛大に行われていた。また、大般若会も行われていたという。しかし、昭和14年の椎谷大火により親寺の西禅院が焼失。その後住職が不在になると荒廃が進み、昭和60年には建物が取り壊され、境内は藪と化していた。これを見かねた有志の呼びかけにより、地域の方や市外の椎谷出身者から広く寄付を募って、平成3年に不動堂が再建された。

現在、毎年5月28日に華蔵院のご住職により法要が営まれている。かつて荒れ放題だった境内も、今では地域の老人クラブの方や近くで田んぼを作っている方が、水の恵みに感謝して掃除を行っている。つい先日には、この地区に生育する樹木を、椎谷の小学生たちが一本一本調べ、樹の名前を書いた札をつける、という活動が行われた。これらは、椎谷の人々の、地域への愛着の証左といえよう。



「越後椎谷名勝 不動滝」

撮影されたのは明治・大正時代と思われる。

当館所蔵「小竹コレクション絵はがき」より